

僕は後悔していない

人違いじゃないだろうなあ。
いらん事に気を使う。

しかし、家の中に入れない。
足がそれ以上前に進まぬ。

しばらく、外から庭を見つめる。

何の為にここまで来た。

このまま帰る気か。

いや、そんな事は出来ない。

どんな事があっても今日は会う。
会う、会いたい。

彼女の弟が虫かごと虫取り網を
持って家から出ようとす。

僕は、門を通りすぎて、

そばのやぶの方に身を隠した。

弟が行ってしまい、門のところに
戻ろうとすると、バイクで人が来た。

その人に見られてしまった。

そのまま、僕は門の前を素通りして、
寺の入口まで、知らぬ顔を装って、
戻ってしまった。

すると、今度は入口から小型車で人が入ってきた。
「ああ、もう駄目だ！」



583